

2026 年度 JASSO 協定派遣「理工学系学生のためのグローバル人材育成に向けた
トビタテ型の協定校長期研究派遣留学プログラム」の派遣学生募集について

日本学生支援機構による公募型支援採択プログラム「理工学系学生のためのグローバル人材育成に向けたトビタテ型の協定校長期研究派遣留学プログラム」により、学術交流協定校への派遣学生を以下のとおり募集します。

(1. 募集人数と派遣期間)

○募集人数：5 名

○派遣期間：2026 年 4 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日までの間に派遣先大学で留学を開始し、6 カ月以上 1 年まで。

(2. 支援対象となる条件)

○派遣先が学生交流に関する協定を締結している大学（研究機関も可）であること。

○派遣終了後、本学に戻り学業を継続し、学位を取得又は卒業すること。

○履修科目の一部等として実施されるものであること。

(3. 対象学生)

○2026 年 4 月 1 日時点で大学院、学部 4 年又は 3 年の日本人学生（外国人留学生は不可）

○語 学 力：次のいずれかの語学水準を満たす者とする。

①STEP 実用英検 2 級以上に合格した者

②TOEIC(L&R 合計)600 点相当以上を取得した者

③前年度の語学成績における成績評価係数 2.30 以上を取得した者

④本学の英語必修科目「TOEIC 英語演習 II」の受講を免除された者

⑤本学国際交流委員会構成員で実施される海外派遣選考英語面接に合格した者

○学業成績：2025 年度（大学院生は学部時の成績）又は入学時からの累計における成績評価係数が 2.30 以上（3.00 満点）の者

(4. 申請にあたり指導教員へ依頼すること)

○希望する学術交流協定校の派遣先指導教員と連絡を取り、派遣留学受入について了承を得る。

○応募書類の研究計画作成について指導する。

○応募書類のうち、指導教員の推薦所見を作成する。

(5. 支援内容)

①JASSO 支給奨学金（給付型）：

○甲地域（ドイツ、フィンランド、フランス等）月額 11 万円支給

○乙地域（韓国、タイ、マレーシア、インドネシア等）月額 9 万円支給

○丙地域（中国、インド、台湾等）月額 8 万円支給

②JASSO 渡航支援金：

渡航に関する必要な経費（航空券代、ビザ発行手数料、スーツケース購入代等）を支援。

※国の予算採択状況により本支援金を支給できない場合があります。

※下記(A)及び(B)の両方に該当する場合、(A)のみが支給対象となります。

(A)支給金額 国・地域問わず 16万円

世帯の所得金額が次の基準を満たす学生が対象です。

給与所得のみの世帯：年間収入金額（税込）が300万円以下

給与所得以外の所得を含む世帯：年間所得金額（必要経費等控除後）200万円以下

※上記所得金額の計算方法は、国際交流センター（h-kokuko@muroran-it.ac.jp）

までお問い合わせください。

(B)支給金額 国・地域問わず 1万円

※奨学金支給回数が6回以上を満たす学生が対象です。

③室蘭工業大学渡航支援金：

往復航空券代金の補助として支給 上限額12万円

※本学の予算状況により本支援金を支給できない場合があります。

※本支援金を受給する場合、②-(A)のJASSO 渡航支援金を受給しないこと。

(6. 応募方法)

①募集締切：2026年4月21日（火）17：00

②次のオンライン申込みフォームから応募ください。

※応募を希望する方は、締切日の1週間前までに、事前相談（指導教員及び国際交流センター教職員）を必ず済ませてから応募ください。

<https://muroranit.sharepoint.com/sites/cfir/SitePages/Longtermtraining.aspx>

(7. 選抜及び決定方法)

応募受付後、本学国際交流委員会委員が英語で面接を行う予定です。

(8. 過去の派遣実績)

・2022年度派遣実績 2名：

①MC2年、1年間フランスへ派遣、修論研究を派遣先の大学で行った。

②学部4年、1年間ドイツへ派遣、卒業研究を派遣先の大学で行った。

・2023年度派遣実績 2名：

①MC2年、10カ月間ベトナムへ派遣、修論研究を派遣先の大学で行った。

②学部4年、11カ月間ドイツへ派遣、卒業研究を派遣先の大学で行った。

・2024年度派遣実績 1名：

①学部4年、6カ月間タイへ派遣、卒業研究を派遣先の大学で行った

・2025年度派遣実績 4名：

①学部4年、5カ月間マレーシアへ派遣、卒業研究を派遣先の大学で行った。

②MC2年、11カ月間フランスへ派遣中。

③MC1年、11カ月間ドイツへ派遣予定。

④学部3年、11カ月間ドイツへ派遣予定。

(9. その他)

①応募者が渡航する時点で、渡航国・地域に関する外務省「海外安全ホームページ」の危険情報及び感染症危険情報がレベル1以下であることを条件とします。

②提出書類の情報は、派遣者選考、奨学金選考、海外危機管理サービス及び海外旅行保険の加入手続き、派遣先本学学術交流協定校の出願手続き、派遣留学の円滑な実施及び派遣留学終了後の報告会や説明会等の為にのみ使用し、その他の目的には使用しません。

（10. 問合せ先）

国際交流センター（入試戦略課国際交流室国際企画係）・担当：永利

電話：0143-46-5885、メール：h-kokuko@muroran-it.ac.jp

＜本プログラム概要＞

【採択されたプログラムの目的・達成目標】

1. 国際研究力の向上：

科学技術立国の日本の国立大学に所属する工学部生・工学研究科大学院生として、日本の工学教育で培われた自らの研究知見や能力を、海外の研究室に身を置くことで、多様な研究アプローチを学び、帰国後の本人や所属大学の国際研究力向上や波及に努める。

2. 異文化生活力の向上：

共通言語としての英語を駆使し、異国において英語コミュニケーションを実践しながら、多様な人材との交流を深めながら将来に向けた国際人脈を構築しつつ、異文化における自身の生活力を向上させる。また、協定校の留学生用宿舎に入居することにより、多国籍の学生と交流する。

3. 海外対応力の向上：

周到な準備で長期海外留学に臨んだとしても困難に直面することが多い異国で、トラブル対処、危機回避などを経て、自ら情報収集・連絡し「自分力」を駆使・向上させ、自分自身に自信を持つ。また、国際社会における技術者／研究者としての進路設計を明確にする。

【プログラムの流れ】

（準備期間 3～6か月）

（1）派遣先の決定と研究活動計画

○指導教員と受入先指導教員との間で本学学生の派遣について了承を得る。

○派遣学生、指導教員、受入先指導教員で、現地での研究活動計画を作成する。

（2）派遣学生による事前準備

○専門分野の英語に慣れておく。（受入先研究室の研究に関する主要英語論文を読むなど。）

○オンライン教材等による日常会話・コミュニケーション向上のための英語学習を行う。

○現地企業・研究機関・大学を訪問コンタクトするために必要なビジネスEメールの書き方、訪問先でのあいさつの仕方などのビジネス英語学習を行う。

（派遣期間中）

（1）学習及び研究

○語学授業（英語、派遣先言語）を受講

○受入を許可された研究室で研究計画に基づいて実験・研究

（2）人的交流

○研究室所属学生や授業受講学生とのコミュニケーション

○協定校の留学生用宿舎に入居することで多国籍の学生と交流

○休日にアクティビティに参加

○地域コミュニティの活動に参加

（3）課題

○現地企業、研究機関、大学訪問の情報収集

○訪問申込み手続き、訪問